

第6学年 学級活動（2）指導案

日 時 : 平成26年10月10日(金) 5校時
 児 童 : 6年1組 男11名 女11名 計22名
 指導者 : 伊東 裕美

【研究主題】ふるさとの復興を担う「人づくり」の展開 ～「自分から」かわり、学びを深める児童の育成～

震災当時、本校よりも河口に近い前任校で5年生を担任していた。校庭に避難した児童の背後には、家や建物、車、船等が流されてきた。津波により家が崩れ流される大きな音。車がぶつかり合う金属音。独特の匂い。近隣住民や近くに職場をもつ大人達の怒号と悲鳴。それらが、すでに不安に怯えて泣いている全校児童のそばに近づいてきた。先頭を歩き、より高台を目指して避難させた。児童の方を向いて歩き、励まし、指示を出しながら、決して後ろを向かせないよう必死だった。しかし、聞かせたくない音と大人達の悲鳴は防ぎようがなかった。私自身の眼前には、震え、泣きながら避難する児童とその後ろに広がる破滅的な自然の猛威があった。

当時、本学級の児童は2年生で、帰りの会での被災だった。子どもたちの記憶は、未だに鮮明であり、その後の一変した生活も折に触れ口にする。持ち上げりの担任として、様々な活動を通して関わってきて、明るく誠実な学級だと感じているが、地震やサイレンへの反応を見ると、当時の影響が強く感じられる。また、3年半が過ぎたからこそ、感覚が突然麻痺した状態から本来の恐怖を感じ取られる状態になってきているようにも見える。今後、だんだんと震災時の記憶が薄れていくことも考えられる。しかし、防災意識が薄れてはいけない。定期的に「備える」について子どもたちと確認し、やがて大人になった時に、次の世代に語り、更にその次の世代にもつなげていける教育をするのが、私たちの目指す「人づくり」であると考えている。

本題材の「その時、君ならどうする？」では、「自助」と「共助」という防災の根幹の下、クロスロードゲームという手立てにより、二者択一の判断・決断のしどころで、瞬時に自分と向き合い、命を守るために必要な意思決定を「自分から」行うことになる。更に葛藤調整・相互干渉・自己決定のための決意をもつという話し合い形式で、自己と他者の意見を比較し検討する。ゲーム性を楽しみながらも最適解を求めるのではなく、迫られた判断についてジレンマに悩みながらも真剣に考えること自体が命を守るための日頃の備えのひとつであることに気付かせることで、防災や減災の意識を高めることができるであろう。更に、高学年として主体的に実践しようとする態度を育てていきたい。

1 題材名 その時、君ならどうする？

2 題材について

(1) 学習指導要領に示されている指導目標及び内容との関連

○目 標

学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。

○内 容

[第5学年及び第6学年] [共通事項]の中での位置付け

学級を単位として、信頼し支え合って楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるとともに、日常の生活や学習に自主的に取り組もうとする態度の向上に資する活動を行うこと。

[共通事項]

- (1) 学級や学校の生活づくり
- (2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全

力 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

○学習の系統（本校の防災教育の学年別目標から：観点は「生きる力」を育む防災教育の展開 文部科学省より）

	ア 知識、思考・判断	イ 危険予測・主体的な行動	ウ 社会貢献・支援者の基盤
低学年	☆教師や放送の話や指示を注意して聞き、理解できる。 ☆日常の生活や災害発生時の安全な行動の仕方が分かる。	☆安全・危険な場や危険を回避する行動の仕方が分かり、素早く安全に行動できる。 ☆危険な状況を見付けた時、身近な大人にすぐに知らせることができる。	☆高齢者や地域の人と関わったり、友達と協力して活動に取り組んだりすることができる。
中学年	☆地域で起こりやすい災害や地域で過去に起こった災害について知り、安全な行動をとるための判断に生かすことができる。 ☆被害を軽減したり、災害後に役立つものについて理解したりすることができる。	☆災害時における危険を認識し、日常的な避難訓練等を生かして安全を確保する行動ができる。 ☆危険な状況を予測し、日常からの環境整備に気をつけることができる。	☆自分たちの生活を支える人々に感謝する気持ちを持ち、周りの人々と協力して人の役に立つ行動をとることができる。
高学年	☆災害発生メカニズムの基礎や過去の災害例から危険を理解することができる。 ☆備えの必要性や情報の活用について考え、安全な行動をとるための判断ができる。	☆日常生活において、災害についての知識を基に、正しく判断し、主体的に安全な行動をとることができる。 ☆被災の軽減、災害後の生活を考え、備えることができる。	☆地域の防災や被災時の助け合いの重要性を理解し、自分から進んでボランティア活動に参加することができる。

(2) 題材構想図

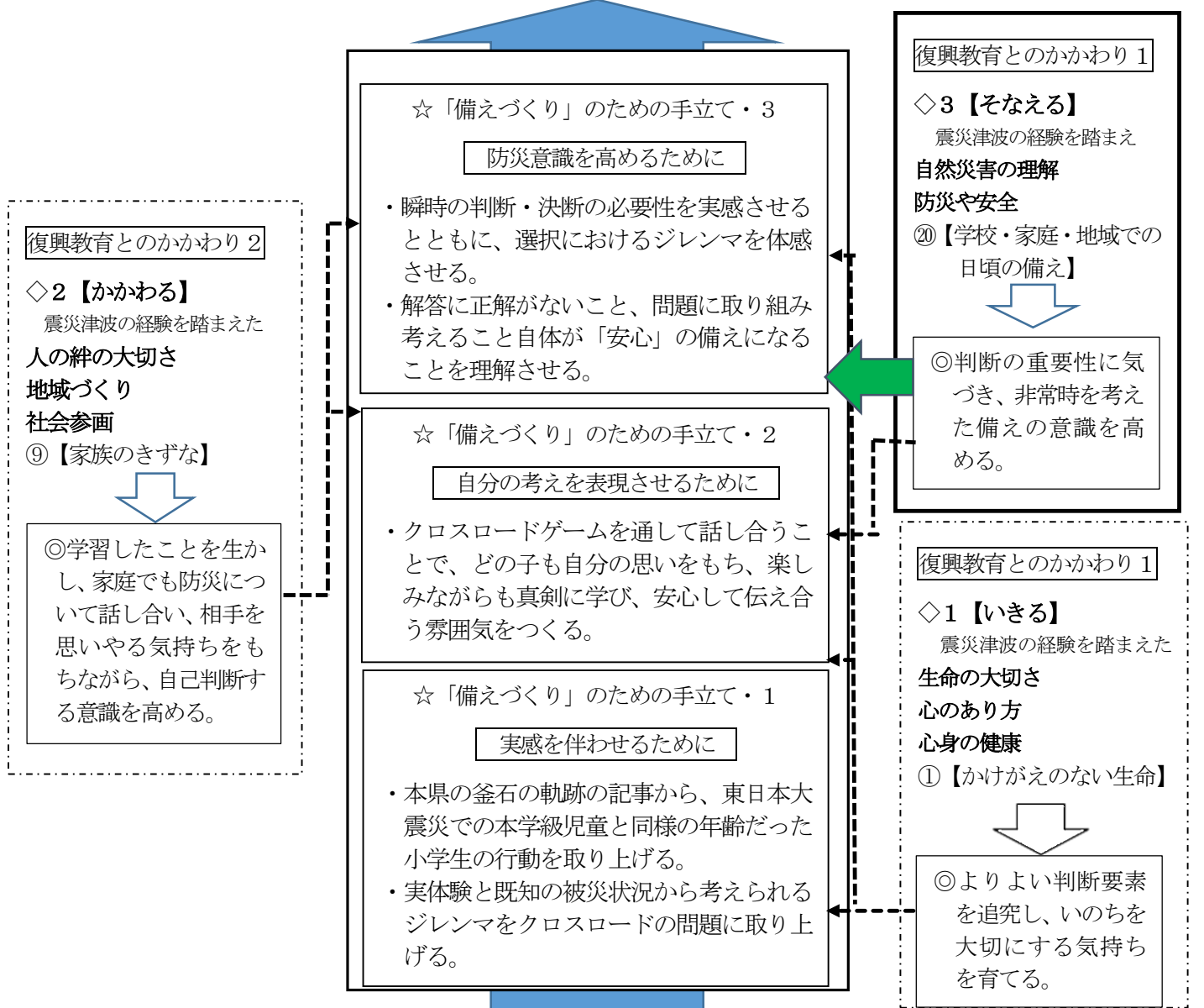
◎本校の復興に向かう合言葉 = 「自分から」

防災教育＝復興教育の基礎学習

《本題材で目指す子どもの姿》

【つなぎ合う～備えづくり～】

いざという時の判断の重要性に気づき、進んで実践しようとする子



【児童の実態】

- 明るく誠実に学習に取り組む。
- 自分の言葉で発言しようとする児童が多い。
- 活動への積極性が二極化してしまうことがある。
- ファシリテートスキルが未熟な児童がみられる。

〈防災意識についてのアンケートから〉

- ・地震は怖いものだと思う。 21人 (95%)
- ・家で災害の備えについて話し合ったことがある。 22人 (100%)
- ・話し合いで、友だちの意見に流されてしまうことがある。 9人 (41%)
- ・自分の意見を学級の友だちに伝えることができる。 16人 (75%)

【題材について】

3. 11東日本大震災を経験した子どもたちであるからこそ、非常時の判断が必要なことに気づき、防災意識をさらに高め、その意識を継続して持ち続けることの大切さを伝えていく存在に育って欲しいと願っている。

クロスロードゲームは、災害時の行動について、瞬時に判断し、根拠を明らかにすることで、自分の考えを表現することができる。また、友だちの考えも取り入れて吟味するよさがある。「話し合い活動」のあり方が明確になり、全員が手順に沿って自分の考えを伝え合いやすい特性も持っている。ゲームを通して、楽しみながら取り組み、問題について真剣に思考・判断しながら、防災意識を高めることができる題材である。

(3) 題材の目標

集団生活や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活への 知識・理解
自己の生活の充実と向上にかかわる問題に関心をもち、仲間と協力して、進んでクロスロードゲームに取り組むことができる。	災害時に起こりうる様々な場面において、自分で判断し、異なる意見を参考にして適切な行動を考えようとしている。	災害に対して、正しい知識をもち、設定状況を理解して判断することができる。
【防災教育との関連】 イ 危険予測・主体的な行動 ☆日常生活において、災害についての知識を基に、正しく判断し、主体的に安全な行動をとることができる。 ☆被災の軽減、災害後の生活を考え、備えることができる。		

3 指導計画

	活動内容	いつ	指導上の留意点・資料	評価規準 (評価方法)
事前	○防災や話し合いに関する実態を調査する。	学級活動	いわての復興教育副読本「いきるかかわる そなえる」を活用し、震災当時を振り返ることで、災害時に判断を迫られた場面を意識させる。 次時に行うクロスロードゲームのしかたを理解させる。	【関心・意欲・態度】 自分や周囲の大人がどのように対応したか考えようとしている。(質問紙) クロスロードゲームのしかたが分かる。(観察)
本時	○災害時の様々な場面の判断力と実践力をクロスロードゲームによって高める。	学級活動	災害時には、様々な意義のある判断や、ものだけでなく心の備えも大切であることに気付かせる。 (本時の展開を参照)	【思考・判断・実践】 災害時に起こりうる様々な場面において、自分の考えをもち、異なる意見も参考にして適切な行動を考えることで、判断の重要性に気づき、家庭でも主体的に実践しようとしている。 (発言・ワークシート)
事後	○本時の学習を日常生活や学習に生かす。	日常生活学習時	災害が起きたときのために、日頃からどのような備えをすればよいのか、授業で学習したことを生かし、家庭でも実践できるようにさせる。	【思考・判断・実践】 家庭で話し合い、災害時の判断の大切さを「備え」のひとつとしてとらえている。 (実践カード)

4 本時の学習について

(1) 目標

- 災害時に起こりうる様々な場面において、自分の考えをもち、判断し、異なる意見も取り入れながら適切な行動を考えようとするすることができる。

(2) 評価規準

思考・判断 ・実践	災害時に起こりうる様々な場面において、自分の考えをもち、異なる意見も参考にして適切な行動を考えることで、判断の重要性に気づき、家庭でも主体的に実践しようとしている。 (発言・ワークシート)	<努力を要する児童への支援> ゲームのしかたを確かめ、グループ内での役割を理解させる。 二択した根拠を友だちの意見と比較してとらえさせる。
--------------	---	---

(3) 「備えづくり」のための手立て

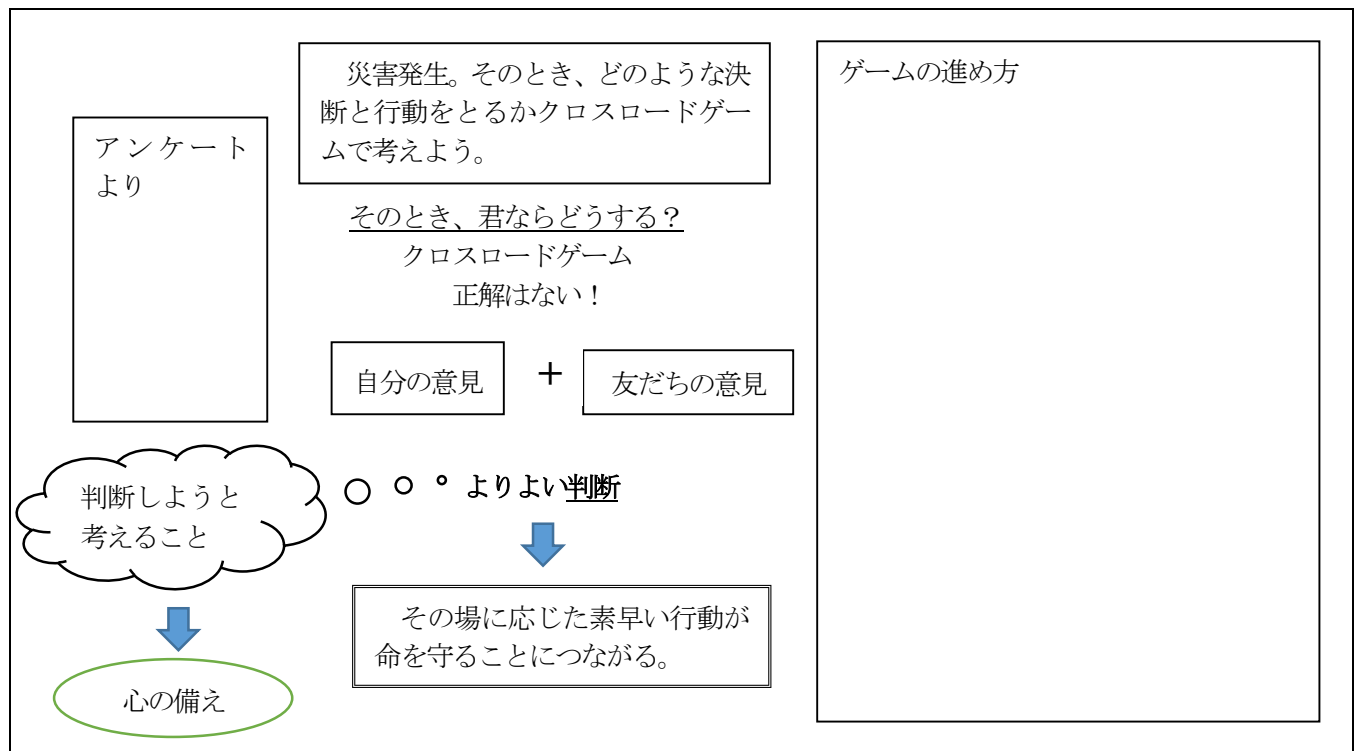
ア <u>実感を伴わせるために</u> ・釜石の奇跡の記事を利用し、他人事ではなく「自分のこと」としてとらえられるようにする。 ・ジレンマの内容を具体的にし、「自分のこと」として考えられるようにする。 イ <u>自分の考えを表現させるために</u> ・クロスロードゲームにより、楽しく真剣に学び、安心して伝え合う雰囲気をつくる。 ウ <u>防災意識を高めるために</u> ・東日本大震災の様子を想起し、判断の二択に正解がないことを具体的に知らせる。 ・実践できるように家庭でも話し合うことにつなげる。

(4) 展開

授業前	リラクゼーション	○気持ちを落ち着かせ、安心して学習に取り組むことができるように配慮する。	
段階	学習活動 (○主発問☆補助発問) ・期待する児童の反応	○教師の支援	◎評価 ◇目指す児童の姿
つかむ 7分	<p>1 非常時には、小学生でも判断を迫られる場合があることを知らせ、課題につなげる。</p> <p>○釜石の軌跡で、どうしてこの子は助かったのでしょうか。</p> <p>☆「つなみてんでんこ」の意味を想起し、自身で判断・行動することも必要だということをとらえる。</p> <p>2 本時の学習課題を確認する。</p>	<p>○新聞記事を読み、東日本大震災で釜石市の小学生は死傷者をほとんど出さなかったわけを、釜石の小学生の行動から考えさせる。</p> <p>○津波てんでんこの教えに触れ、自身の体験と比較させる。</p> <p>○判断することの大切さから、クロスロードゲームで学習を進めることを知らせる。</p>	<p>◇津波警報等が出されたら、自分の命を守るために、各自ですぐに逃げるということを理解している。</p> <p>◎新聞記事の内容を理解しているか。 (発言・態度)</p>
<p>災害発生。そのとき、どのような決断と行動をするかクロスロードゲームで考えよう。</p>			
ふかめる	<p>○グループごとにクロスロードゲームの役割分担を確認し準備しましょう。</p>	<p>○ルールやクロスロードゲームの特徴を確認する。</p> <p>○ゲームの準備を効率よく行わせる。</p>	
30分	<p>3クロスロードゲームを行い、グループごとに課題について話し合う。</p> <p style="text-align: center;">【つなぎ合う】</p> <p>問題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>① 海に近い町での宿泊学習で、ウォークラリーをしている時、大地震発生。周辺には大人がいない。家もない。ゴールに先生はいるはずだが、1 km 先で、しかも海に近い。雨も降ってきた。ゴールに向かいますか？</p> </div>	<p>○釜石の軌跡を参考に、子どもが危機を察し、自己判断でいのちを守ったことから「クロスロードゲーム」を行い、自分の考えをもったり、友たちの考えや価値観を知ったりすることの大切さに気付かせる。</p> <p>○1問につき7分程度で話し合い、自分の考えを話したり、友だちの考えを聞いたりして3つの課題で交流する。</p> <p>○同じ意見も自分の言葉で伝え合うことができるように声をかける。</p> <p>○友だちの考えをよく聞き、考えのよさに気付かせるようにして話し合わせる。</p>	<p>◇ゲームの特性を理解し、すすんで問題に取り組んでいる。</p> <p>◎問題を理解し、根拠をもって自分で判断しているか。 (発言・ワークシート)</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ふかめる</p>	<p>② 大地震発生。急いで避難所に向かわなければならない。家族同然の飼い犬（ゴールデンレトリバー メス3歳）も一緒に避難所に連れて行きますか？</p> <p>③ 下校途中、大地震が発生。サイレンが鳴り出した。避難場所になっている学校に戻ろうと思ったが、家には、5時間授業で先に帰り留守番をしている妹がいる。大きなタンスや窓ガラスも心配だ。家に戻りますか？</p> <p>6 まとめる ○ファシリテーターが、本時のゲームや話し合いの様子について発表する。 【つなぎ合う】</p>	<p>○ファシリテーターの進行のもと、話し合いがなされているか確かめ、必要に応じて声をかける。</p> <p>○机間指導を行い、活発な話し合いになるよう励ます。</p> <p>○ファシリテーターの視点（ゲーム展開・交流の様子・わかったこと）を明らかにしておき、本時のまとめにつなげられるようにする。</p> <p>○よりよい判断をしようと根拠をもって真剣に考えること自体が、心の備えになることをおさえる。</p>	<p>◇グループ毎に意見を交流し、ジレンマの要素を理解して、思考を深めている。</p> <p>◎内容に即した話し合いがなされているか。 （発言・ワークシート）</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ひろげる 8分</p>	<p>7 本時をふりかえり、ワークシートに感想を書く。 【つなぎ合う】</p>	<p>○自分の感想に加え、友だちの考えや価値観を知り、感じたことを書かせる。</p>	<p>◎瞬時の判断が大切であることに気づき、家庭でもできるものと心の備えについて実践しようとしているか。 （ワークシート、発言）</p>

(5) 板書計画



わが家には、3日分の保存食と水の準備がある。しかし、避難所では多くの家族が保存食や水を持ってきていない。あなたは、その食料をみんなに分け与えますか？

真冬の朝方に地震が発生した。避難所に指定されている小学校までは歩いて20分かかる。歩いて5分のところには公民館がある。まずは、公民館に行きますか？

①大地震発生。急いで避難所に向かわなければならない。家族同然の飼い犬「アッシュ」(ゴールデンリトリバー メス 3歳) も一緒に避難所に連れて行きますか？

大地震が発生した。町の人がたくさん避難所に集まっている。2000人いるこの避難所に300人分の食料が届いた。すぐにこの食料を配りますか？

被災から1ヶ月が経った。自宅で生活し、弁当だけ避難所にもらいにくる被災者が多く見受けられる。彼らの分の弁当を用意しますか？

防災リュックを持って避難所に到着した。しかし、周りの人々は、水も食料も持たずに避難してきていた。すぐお腹のすいているあなたは、きちんと自分たちのために備えておいた防災リュックの中に入っている水や食料を食べますか？

大地震が発生し、家は半壊状態。避難所生活を送っている。避難所では風邪が大流行。あなたは、避難所を出て家に戻りますか？

大地震が発生。みんなが避難所に必死に向かおうとしているとき、テレビのカメラマンが近づいてきた。被災の状況を正確に伝えようと、リポーターは必死に歩く近所の5年生にインタビューしようとしている。あなたは、テレビ局の人にインタビューを続けさせますか？

① 大地震発生。急いで避難所に向かわなければならない。家族同然の飼い犬「アッシュ」(ゴールデンリトリバー メス3歳) も一緒に避難所に連れて行きますか？

下校後一人で家にいた時、津波警報発令！学校に避難しようと玄関を出たが、親から避難時に持つように言われていた防災リュックを忘れた。ほんの数十秒で戻れる。家に戻りますか？

② 下校途中、大地震が発生。サイレンが鳴りだした。避難場所になっている学校に戻ろうと思ったが、家には、5時間授業で先に帰り留守番をしている妹がいる。大きなタンスや窓ガラスも心配だ。家に戻りますか？

③ 海に近い町での宿泊学習で、ウォークラリーをしている時、大地震発生。周辺には大人がいない。家もない。ゴールに先生はいるはずだが、1km先で、しかも海に近い。雨も降ってきた。ゴールに向かいますか？

学校にいる時に地震発生！津波に備えみんな避難することになった。しかし、友達が一人見当たりません。すぐに探しに行く？

あなたは、海の近くに住んでいます。家に一人でいる時に地震が発生！すぐに津波が来るかもしれません。今すぐ避難所に向かって避難しますか？

家に一人でいる時に地震が発生！津波がくるかもしれません。しかし、家族と連絡がとれません。連絡がとれるまで家で待ちますか？